



第129号

発行 熊本市中央区黒髪2丁目2番1号 熊本県立済々紫高等学校 同心会広報委員会

王頌領 磨知 重隆 倫理 大義 振元 文書 達文

SAP体験学習を終えて

栗山敬浩 第一学年主任

八月九日(日)を除く八月三日(月)〜八月十二日(水)及び八月二十日(土)の十日間に亘って、SAP(ソーシアルアクションプログラム)体験学習を行った。...

「食は命なり」と名言を残した江戸時代の水野南北、食事内容で、その人の性格だけでなく運命が変わると言っている。...

勤労体験学習受入企業

- <食分野> ●有限会社 コウヤマ ●株式会社 多田産業 ●熊本市リサイクル事業センター ●有価物回収協業組合 石坂グループ ●ソーニセミコンダクタ 株式会社



ただき、多くの先生方と共に生徒たちの成長ぶりを喜び、そして感謝した次第である。生徒諸君には、僅か一日間とはいえ、このSAP体験学習で培った「生きる力」をこれからの学校生活、及びその後

職業別講演会

期日/十月三日(日)会場/本響 ①諸先輩の見た現場の声を耳を傾けることにより、将来の夢を膨らませること

- 講演会講師 ●小学校教諭 白木 大塚 木 久里子 志氏 ●中学校教諭 浦松 信一郎 氏 ●養護教諭 福松 洋弘 氏 ●心理カウンセラー 藤井 憲一郎 氏 ●医師 石松 弘弘 氏 ●薬剤師 松本 辰巳 氏 ●診療放射線技師 山下 明氏 ●臨床検査技師 藤井 隆一 氏 ●看護士 櫻井 優子 氏 ●国家公務員 松岡 拓也 氏 ●ソサティ・コンサルタント 須藤 孝史 氏 ●金融関係(銀行) 吉村 泰太郎 氏 ●化学系研究技術者 久保 健太郎 氏 ●機械系研究技術者 村田 敬太郎 氏 ●IT関連研究技術者 坂本 正治郎 氏 ●貴倫 志氏

他校訪問

10.16九州大学伊都キャンパス & 西南学院大学



進路支援委員会主催の「他校訪問」に行ってきた。今年度は仲山主幹、高松先生、森田先生、水口先生、福田先生の五名の先生方と六十六名の保護者に参加いただき、九州大学と西南学院大学を訪問しました。

授業内容やアルバイト、家賃・生活費のことにとどまらず就職先のこと、大学の選定やゼミについて話を聞きました。

センター試験の結果など熱心な内容でした。最後に西南学院大学を見学し、大学に関する説明と本巣卒業生の話を聞かさせていただきました。

孔明柏 Konomihara 秋も終盤に入り、息子たちはもうすぐセンター試験を迎える。思えば、入学してから野球部の朝練の怒涛の毎日であった。遅く帰ったと思っただけ、真つ黒になった練習着の洗濯で、数ヶ月は睡眠不足で仕事にうたた疲れた事もある。...



# 済々文化祭 済誕 133rd

～文明を進む黄色い閃光～

済々文化祭の2大行事と言われるうちの1つ、済々文化祭が今年も無事に終了しました。今年の文化祭では、各クラス、団体共に個性的な発表があり、ステージ発表、2日目の出展ともに、充実したものになりました。各団体で協力し、運営をした経験を今後の生活に活かしていけたらと思います。皆さん、お疲れ様でした。

実行委員長 恒松 雅

## 進路講演会 2014 夏

「わたしの出会った人と言葉」  
～グローバル体験を通して～



熊本県環境立県推進課  
岩永 千夏氏

七月七日、熊本県立劇場にて第一学年の進路講演会が行われました。今年度は、本県卒業生であり、熊本県環境立県推進課の岩永千夏氏を講師に迎え「わたしの出会った人と言葉」グローバル体験を通して」という演題で非常に興味深い講演をいただきました。

広報委員 吉良 道子

### 2年生



熊本日日新聞社  
編集委員兼論説委員  
井岸 道一氏

七月九日、二学年進路講演会が開催されました。講師として熊本日日新聞の井岸道一氏をお迎えし、「グローバル人材を目指そう～新聞記者の視点から～」という演題でご講演いただきました。井岸氏は大学の学部選択や入社後の仕事について、自らの進めべき道を再確認したり、未知の領域を新たに開拓したりとご自分の体験をもとに話され、生徒諸君にとっては大いに刺激になる内容でした。また、地方大学のグローバル化が進む昨今、多くの人材が世界規模で活躍できる土台が出来つつあり、若者が自らチャレンジをつかみに行き全体を通してというメッセージを送っていただきました。講演全体を通して氏が示されたチャレンジ精神を胸に生徒諸君が今後の学校生活を送っていただくことを願っています。

第二学年主任 村田 繁

### 3年生



(株)ベネッセコーポレーション  
九州支社  
高橋 正勝氏

七月十日、三年生とその保護者に対し、熊本県立劇場にて前記の題目についての進路講演会が開かれた。高橋さんが伝えたこと。一番は自分の可能性を信じる事。東北の震災や雲仙の火砕流の被害にあった高校生やその住民の協力により、過去最高の進学率を出した例をあげて、「きっかけさえあれば、過去最高の進学率を出した例をあげて、自分の可能性を信じて、自信を持つ事が大切である」とある。そのために必要な事は①実力、努力②目的、目標③情報④運の四つ。その後、文部省が掲げる教育再生改革を話され、大切な事は「興味・関心」そして何より強い意志が必要。そして今後変わっていく入試や大学、学部学科の強弱について、そして、センター試験で高得点を取るためには、教科書・授業がいかに大切であるかを説明され、これから始めてほしい九つのポイントを話された。これから受験の大切な時期を迎えるにあたり、心を新たにすることを願っています。

広報委員 上野 みさ

### 保護者感想

高橋氏の講演を聞いて、参加した保護者からは以下のような感想が寄せられた。  
「今から」でも遅くない!ということを再認識できた。百九十七日、受験生の母としてしっかりと取り組んでいかなくては、という思いを新たにした。  
涙ぐむこともあり、笑もあり、しっかりと話を聞くことができた。親子共々、希望に向かって努力していきたいと思う。  
これから迎える夏に向けて、温かい励ましの言葉が詰まった講演会で、これから百九十七日間の受験に向けて、やる気の起る話を沢山聞かされた。きっかけがあれば、頑張れる。自信を持つためには、今が大事!親子共々、希望を持って過していきたい。  
最後の最後まで自分の夢をあきらめることなく、一日一日を精いっぱい過ごして欲しい、悔いの残らぬ受験ライフを送って欲しい...親として切に願うばかりである。

広報委員 村田 裕子

### 第17回 済々文化祭 VS 熊高 野球対抗戦



十一月十五日(日)熊本高校・済々文化祭野球部定期戦が行われました。雨でグラウンドコンディションが悪くB戦が中止になったのが残念でしたが、結果は3対0で済々文化祭野球部が勝利。無事に今年最後の試合を終えることができました。

### 第24回 佐々旗親善剣道錬成大会



十月二十五日(日)、本県体育館にて第二十四回佐々旗親善剣道錬成大会が開催された。本大会は済々文化創立百周年を記念し、熊本高校や八代高校、玉名高校、高瀬高校など、済々文化関係の深い高校を招待し毎年行われている。二十四日を数える本年も、各校の部員や保護者から熱い声援がかけられるなか、熱戦が繰り広げられた。済々文化は男女ともに決勝戦へ進んだがいずれも惜敗、準優勝に終わった。

# 遠足だより

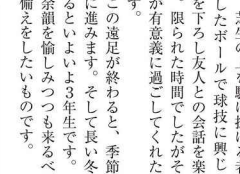
3年  
11/13  
遠足に行つて  
第二学年主任 大塚 正宏



今年の学年遠足は、雨天のため水俣市総合体育館に目的地を変更しました。交通渋滞で到着時間が大幅に遅れましたが、旧生徒会総務委員の諸君が、見事にクラスマツチを運営してくれました。歓声を上げて、ミニ・バレエに興じる生徒諸君の笑顔にとても救われました。最後の掃除、片付けでも生徒諸君が協力して動いてくれたことも印象に残りました。帰りのバスに乗り遅れたところでも生徒諸君が他のクラスのバスに分乗することになりました。このとき大変スムーズに皆が対応してくれました。このトラブルと渋滞が重なって帰着時間が遅くなり、生徒諸君と保護者の皆様には大変ご迷惑、ご心配をおかけしたことを思います。心よりお詫び申し上げます。



2年  
11/13  
2学年遠足について  
第二学年主任 村田 繁



去る十一月十三日(金)、二学年の遠足を行いました。今回は初めて「あんずの丘」を目的地として選びました。本校からバスで一時間程度の距離ですが、自然に囲まれ、解放感あふれる場所です。生徒諸君には、日常を離れ精一杯羽を伸ばしてもらいたいという気持ちから学年団でこの場所を選びました。朝からの雨で、雨天時に予定していた体育館でのドッチボールの実施を考えましたが、生徒諸君の熱気が天候をも変化させたようで、終日屋外での活動となりました。芝生の上を駆け抜ける者、持参したボールで球技に興じる者、腰を下ろし友人との会話を楽しむ者。限られた時間でしたがそれぞれが有意義に過ごしてくれたようです。



## 「芸術鑑賞」N響演奏会



十月二十八日(水)の午後より県立劇場演劇ホールにてN響による演奏会が行われた。チャイコフスキーのくるみ割り人形から始まり、クラシック演奏はなじみのある曲が多く、その他にもクング・ジブリ・ディズニーなど生徒たちが楽しめる選曲になっていた。アンコール曲「ふるさと」の後、N響の生演奏、奥田先生の指揮で賛歌を合唱するという心に残る演出で締めくくられた。素敵な芸術の秋の一日となりました。  
広報委員 吉良 道子



## APU(立命館アジア太平洋大学) 連携ワークショップ

平成二十七年七月一日(水)から三日(金)にかけて一年生SGクラス(9・10組)がAPU研修に参加しました。国際留学生が多数在籍する、まるで異国のような環境で、国際学生とのディスカッションやインタビュー等を通して、各グループ毎に研究テーマの考察を深め、英語で簡単な研究のデザイン発表を行うことを目的としました。

初日、APU到着後、開校式の中でアドミッション・オフィスの下乃門氏から「グローバル化とは」「コミュニケーションの際の大事なポイント」についての話をいただきました。その後キャンパスツアー、国内学生・国際学生からのモデルプレゼンテーションを受け、夜には翌日のインタビューに向けての英訳作業を行いました。

二日目は、国際学生とのディスカッションやインタビューを実施しました。最初は遠慮がちだった生徒達も次第に慣れ、各グループ毎に積極的に話し合っている様子が見られました。夜の研修では、最終日の英語のポスター発表に向けての準備にグループ毎に励み合っていました。

最終日のポスター発表は各班とも工夫を凝らしており、英語での発表も頑張りが見られました。特に質疑応答は、国際学生が質問する間がいほど生徒達の間で積極的に行われ、頼もしく思いました。今回の研修では、達成感と同時に課題も多く得られたことだと思います。是非今後の活動につなげて欲しいと思います。

グローバルキャリア課長 鶴濱 正悟

## 編集後記

今号は進路講演会をはじめ、一年生の職業体験、文化祭と済々塾生の活気あふれる活動の様子や行事を中心に掲載しましたが、いかがだったでしょうか。四月に入學した一年生も、二期を迎え、立派な済々塾生として活躍している姿が見られました。文化祭ではクラスオリジナルのTシャツを作ったり、皆で協力し、素晴らしい出し物や作品を作ったり、子ども達の一生懸命な姿や笑顔、明るさや優しさに触れることができ、とても良い時間を持ていただけたことができた。広報活動に携わり、行事や講演会に参加させていただいたことを嬉しく思っています。最後に取材や原稿依頼に協力していただいた皆様へ感謝致します。  
(広報委員 青木 真貴子)

## 卒業生保護者懇談会



八月二十二日(土)に贊士館において、進路支援委員会主催の「卒業生と保護者の懇談会」が開催され、受験期を乗り越えられた卒業生の経験談や精神的金銭的に支えてくれた保護者の方々の話を聞く貴重な時間を持つことができました。在校生の保護者の方々からの次から次へとくる質問、後輩達のために一生懸命答えてくださった先輩方、「勉強しなればいけない」という事は本人が一番わかっているが、勉強している、それなのに勉強しなさい」と言われる。そして、勉強する気がなくなる。そして見守ってほしい」と切々と訴えられる場面もあり、耳が痛くなることもありましたが、先輩方からの助言を第一志望校合格へ向け、子ども達をサポートする為に役立てたいと思えました。  
広報委員 吉井由香里

8/22(土)